

第3回平塚駅周辺地区 まちづくりセッション



2026年7月30日(木)

1.平塚駅周辺地区まちづくりセッションの目的

1. 平塚駅周辺地区まちづくりセッションの目的

- 平塚市の取組状況共有
- 各団体ごとの活動内容の共有
- 民間開発など情報共有
- 今後の方向性、進め方に関する意見交換
- エリアマネジメントの構築に向けての検討

エリアマネジメントのイメージ

平塚駅周辺地区エリアマネジメント協議体

連携



エリアマネジメント会社（法人化）

まちづくりの頭脳

- ✓ 年2回の会議
- ✓ 市の取組報告
- ✓ 民間の取組報告
- ✓ 課題の整理
- ✓ エリアマネジメント会社の方向性
- ✓ 空間のデザインマネジメント

まちづくりのプレイヤー

- ✓ 道路、公園、広場の利活用
- ✓ エリアのブランド化（情報発信等）
- ✓ 事業（アクティビティの創出、機能店の充実）

エリアマネジメントのイメージ

平塚駅周辺地区エリアマネジメント協議体

=

まちづくりのセッション

連携



エリアマネジメント会社（法人化）

=

検討中

エリアマネジメントのイメージ

行政

- 地域のまちづくりを担う法人に認定
(公平性と公共性の担保)
- 公共空間活用を許可
- 公共空間活用の規制緩和
- 人的支援
- 財政的支援

参画

エリアマネジメント協議会

まちづくりの方向性
品質管理・情報共有

方向性決定

報告

支援

エリアマネジメント会社 (法人化)

収益化事業
・道路、公園利活用
・まちの拠点の運営

課題解決

参画

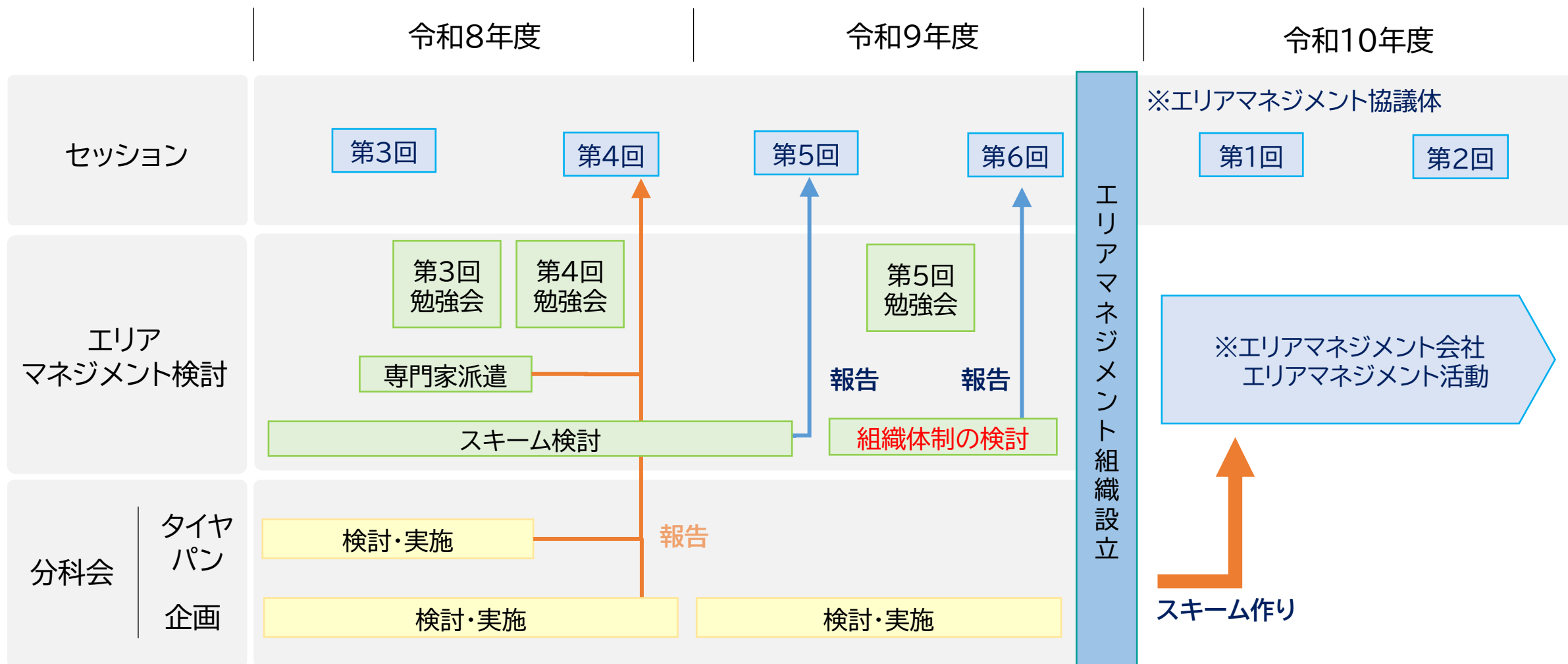
駅周辺地区に関わる団体

- 【地権者・住民】
- エリアマネジメント活動へ参加
- 活動場所の提供
- 周知
- 【企業・商業者】
- エリアマネジメント活動へ参加
- 活動場所の提供
- 協賛
- 出展
- 人的支援

効果

まちの魅力アップ 人口増加 不動産価値向上 賑わい増加 企業価値向上 地域への愛着 治安・防災力向上

エリアマネジメントのイメージ



2.平塚市の取組

都市再生整備計画に基づく5年間の取組

	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
湘南 スターモール	車道整備 開通イベント	歩道実施設計		歩道改修工事	
大門通り 浜大門通り		社会実験	実施設計		改修工事
紅谷 パールロード	駐輪対策	社会実験			
平塚駅南口 駅前広場	詳細設計		整備	スマートバス停 工事	
新宿公園		トイレ改修 全体設計		全体改修工事	
その他	敷地共同化調査 エリア マネジメント構築				北口交通解析

※赤字は整備事業

道路再整備に向けたワークショップ「みんなのリビングinスタモ」

- 令和7年度に将来構想実現に社会実験「みんなのリビングinスタモ」を実施しました。
- 湘南スターモール再整備に向け、地域のみなさまと意見交換を行っています。
- ワークショップでの意見をふまえ、「青・白」を取り入れた舗装の打ち替えを実施します。
- 今年度からは、令和11年に実施する歩道改修に向け、空間形成ガイドラインの策定や、道路空間の活用について意見交換を実施しています。

- 舗装イメージ（なぎさプロムナード・町田市）



- ワークショップの様子



公園再整備に向けたワークショップ「みんなのリビングinはと公園」

- 令和7年度に社会実験「みんなのリビングinはと公園」を実施しました。
- 新宿公園再整備に向け、地域のみなさまと意見交換を行っています。
- 令和9年度に実施するトイレ改修と令和11年度に実施する全体改修工事に向け、空間形成ガイドラインの確認や公園活用について、意見交換を行っています。
- ワークショップでの検討内容を周知する機会を設ける予定です。

● 昨年度の社会実験の様子



● ワークショップの様子

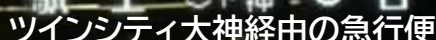


自動運転バスの社会実装に向けた取組

進めています。自動運転バス実証実験
～新たな時代のバスを平塚から～



- **新規路線バスの開設協議**



-

- 平塚市岡崎地区
コミュニティタクシー実証実験



-

自動運転バス実証実験：背景と目的

本市は、南部に唯一の鉄道駅である、JR東海道線 平塚駅が位置し、市内の主要な交通手段である路線バスが、平塚駅を中心に隣接市の小田急線各駅等に向けて、約70系統運転されています。

ドライバー不足が深刻化する中、本市にとってバス路線の確保・維持が最重要課題です。

このため、課題解決の一助として期待される自動運転バスの実証実験を、運行事業者である神奈川中央交通株式会社（本社：平塚市）と共に取り組むことになりました。

図 公共交通の現況（鉄道、バス、サイクル&バスライド）



自動運転バス実証実験：背景と目的

地域の公共交通を取り巻く環境（供給面での変化）

□ 路線の廃止・減便：

- 乗合バスは、H28からR5に計11,917kmの路線が廃止。7割以上の路線バス事業者が赤字。
- 関東管内の約7割の自治体において、コロナ禍以降に廃止・大規模減便を経験

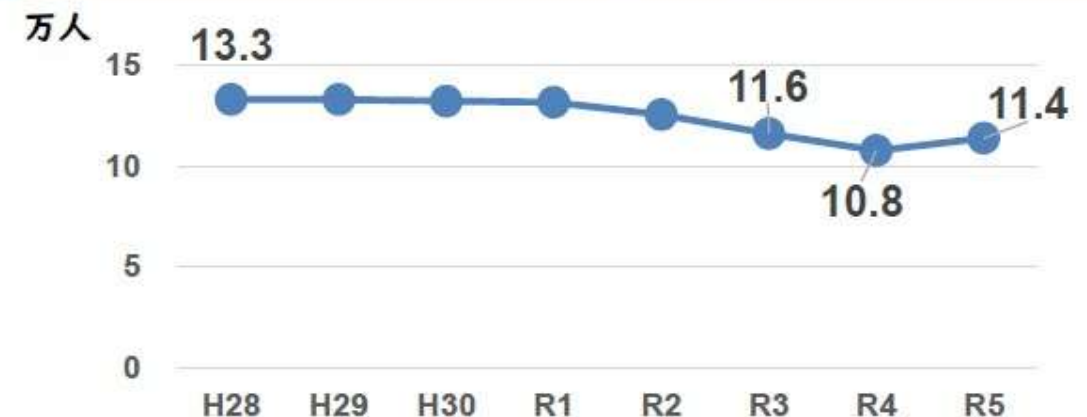
□ 利用者減と担い手の減少が路線廃止・減便の主要因に：

- 乗合バスのドライバーは、H28からR5にかけて1.9万人減少
- コロナ禍後、働き方改革（2024年改善基準告示改正後）後、担い手不足が要因との回答が増加

乗合バス路線の廃止・減便状況



ドライバー数の推移



自動運転バス実証実験：背景と目的



①平塚駅南口の既存バス路線（平15系統 南口循環）と同じルートで、大型路線バス車両を使用した自動運転の実証実験を実施



②平15系統の自動運転化後、将来的には周辺のバス路線（平塚駅南側エリア）を自動運転バスに置き換えます。



③捻出した人的リソースを、平塚駅北側エリアに再配分等を行います。



人が対応する路線とシステムが対応する路線を棲み分け、本市のバス路線を確保・維持へ

自動運転バス実証実験：運行ルート概要



- ・ 走行区間：平15系統 平塚駅南口～すみれ平～平塚駅南口
(平塚駅南口循環) / 4.3 km
- ・ 自動運転レベル：レベル2



- ① 平坦で見通しが良い直線道路が中心で、全線にわたり歩車分離
- ② 左折中心のルートである。(※左折3か所、右折1か所)
- ③ 国道、県道、市道を走行し、車線数や法定速度が異なる様々な性格の道路を經由
- ④ 走行ルート付近に神奈川中央交通株式会社の本社があり、迅速な対応が期待可

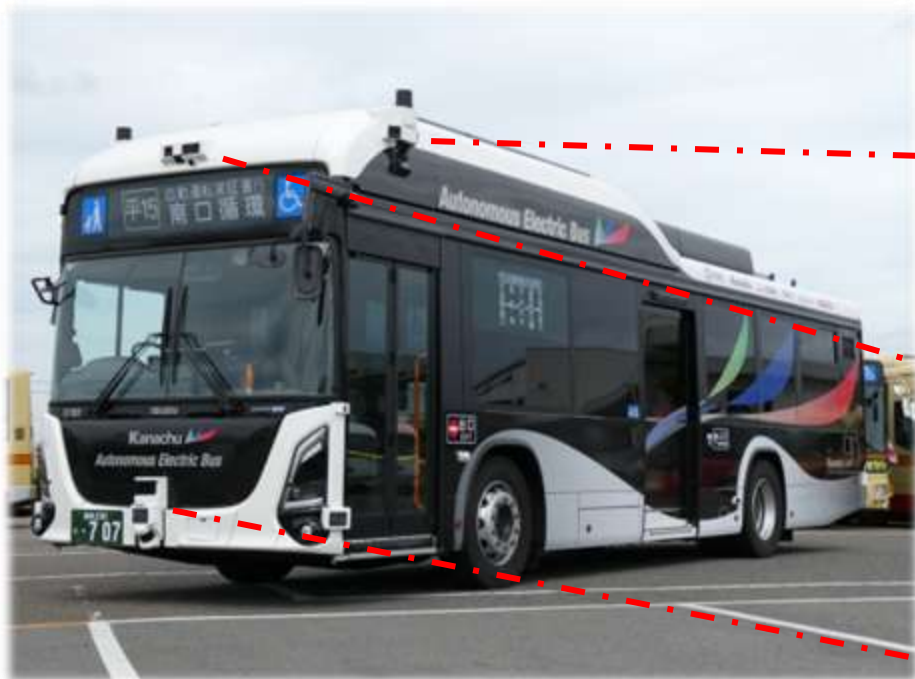
自動運転バス実証実験：事業の概要



エルガEV 自動運転バス(2025年度から使用)

- ① 開始時期：2023年度
- ② 目標：既存運行しているサイズの路線バスをそのまま自動運転化へ。
- ③ 内容：自動運転レベル2（運転士が同乗した状態で、必要に応じて手動操作を実施）から検証を始め、走行技術・運用等を実証中。
- ④ 2025年度の自動走行率は、約96.5%
- ⑤ 2027年度の自動運転レベル4（特定の走行環境条件下で、自動運行装置が運転操作の全部を代替）の認可取得を目標としています。

自動運転バス実証実験：エルガEV 自動運転バスの概要



◎ LiDAR

「Light Detection And Ranging」の略。レーザー光を照射し、その反射光をもとに対象物までの距離や対象物の形を計測。主に、自車位置推定や障害物検知に使用。

◎ カメラ

明暗差の大きな環境でも高画質な撮影が可能。車両の各部に設置され、物体認識や信号認識、遠隔監視などに使用。

◎ ミリ波レーダ

ミリ波帯の電波を利用して対象物との距離を計測するもので、遠方から接近する車両の検知などに使用。

自動運転レベル	レベル2
車両寸法	長さ10,740mm 幅2,485mm 高さ3,300mm
乗車定員	68名（運転席含め座席は20席） ※一般運行時の定員は、19名（運転士のぞく）
最高速度	実証実験時上限 40km/h

自動運転バス実証実験：平塚市の車両はここが違う



- 全国各地で行われている自動運転バスの実証実験ですが、多くは小型の車両を使用しています。
- さらに、国産の大型電気バスを使用しているのは、平塚市のみであり、世界的に見ても珍しい事例です。

(写真左上：石川県小松市の事例)

(写真左：茨城県境町の事例)



自動運転バス実証実験：昨年度までの主な検証項目



事業用ナンバー
(営業運行)



キャッシュレス
運賃収受



大型EV車両での運行



バス会社による
オペレーター業務



日没後の運行



L4許認可
申請準備



遠隔監視と
ドア開閉の自動化※



路上駐車回避



バスベイへの
自動停車～発車



信号連携

※ 遠隔監視システムと連携したドア自動開閉の実施を検討：時間や位置情報をきっかけとし、AI判定を行い、予告アナウンス後にドアを自動で開扉/閉扉するフロー

自動運転化に向けた課題：路上駐車等への対応

2024年度は県道608号の一部、2025年度は全区間で路上駐車等の自動回避を実施。手動介入ケースは依然残り、**要因の半数が、路上駐車対応に起因しています。（特にバス停付近）**でした。

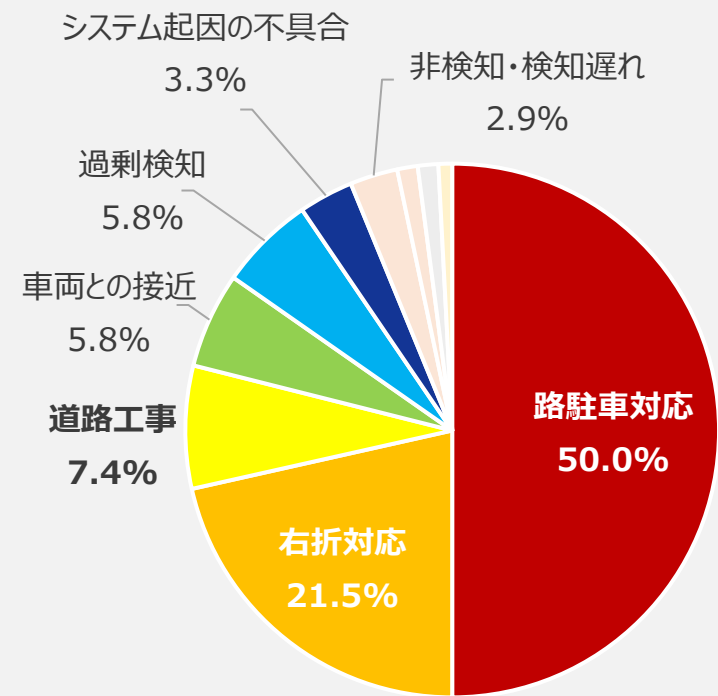


図 2025年度 要因別手動介入割合
(全140便)

手動介入要因	割合（回数）	
路上駐車対応	50.0%	(121)
右折対応	21.5%	(52)
道路工事	7.4%	(18)
車両との接近	5.8%	(14)
過剰検知 (自転車・歩行者)	5.8%	(14)
システム起因の不具合	3.3%	(8)
非検知・検知遅れ (自転車・歩行者)	2.9%	(7)
過剰検知 (車両)	1.2%	(3)
過剰検知 (周辺環境)	1.2%	(3)
その他（誤操作）	0.8%	(2)



自動運転バス実証実験：今年度の取組み

国土交通省「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転社会実装推進事業）」の重点支援事業に採択
デジタル庁「自動運転社会実装先行的事業化地域事業」に選定

今年度実証実験における新たな取組

- 複数台車両に対する遠隔監視機能および実施体制の検証
- 立席乗車の実施による運用等の検証
- 路上駐停車車両に対する自動回避機能の高度化



令和9年度の自動運転レベル4 認可取得を目指します。



3 .分科会の取組

タイヤパンプロジェクト分科会



2月に実施したまちづくりセッションで出たアイデアの実現に向けて動いています。
横浜ゴム(株)のタイヤをイメージしたパンを**県立平塚農商高等学校**がデザインし、
高久製パン(株)によってつくるプロジェクト。
企業や学校が連携し、地域全体の力で駅周辺地区を魅力アップしていきます。

10月10日 産業フェスから販売開始

販売や広報活動ご協力いただける団体を探しています



企画分科会

平塚駅周辺で現在足りないものは「目的」。

この企画分科会を通じて平塚駅周辺地区に来てもらう「目的」を創出する。



イベントを通して目的を創出する

開通式と合わせて企画分科会で湘南スターモールを活用したイベントを開催する

平塚駅周
辺地区で
必要なこと

目的
イベント
公共施設

機能
商店
買い回り

滞留
社会実験
(ベンチ等)

イベント案

20年後の将来構想
をイメージしたイベント

【ターゲット】
子供

- 企業PRブース
- 対抗綱引き
- はたらく車の展示
- 自由に遊べる遊具
- 駅前の象徴となるモニュメント
- いろんな活動ができる空間づくり（プレイストリート）
- 空き店舗活用
- 商店街の職業体験
- ベルマーレのサッカー教室
- バルーンショー
- こども食堂
- など



4.まちづくりの動向

紅谷町5番街区について

- 本市と平塚信用金庫は2032年にそれぞれ市制施行と創立100周年を迎えることから、今年3月には包括連携協定を締結しました。平塚のまちの未来を見据えて連携を強化していくことにも合意しており、理事長からは、周辺地域の発展につながるよう当該地の活用について一緒に考えさせてほしいとの大変ありがたいお話をいただいたところです。

平塚駅周辺地区の中でも、紅谷パールロードに面した「平塚の顔」ともいえる大切な場所が今、もう一度動き出そうとしていることは、本市にとっても絶好の機会と捉えています。多くの人々が集い、賑わいを創り出す拠点となるよう、私もまちづくりをリードしていく者として、平塚信用金庫と手を携え、スピード感を持ってしっかりと取り組んでまいります。

(令和8年度6月議会答弁より)



5.まちづくりの意見交換

紅谷パールロードの活用について

通りの将来像

店舗内と道路空間を一体的に活用し
飲食をメインテーマとするモール



道路空間を活用するために・・・

- ✓ 令和 8 年度に暫定駐輪場を撤去する予定。
- ✓ 令和 9 年度から社会実験を行っていきます。
- ✓ 社会実験実施後、整備を進めていきます。



パールロードの活用について

パールロードの活用（将来的なイメージ）について、参加者の皆様のご意見を聞かせて下さい。

POINT!

- ✓ どんなイメージ（景観や雰囲気）の通りにしたいか
- ✓ イベントだけでなく、普段からどのようなものや
パークレット等があると良いか
- ✓ やってみたい活動は